

## VI 高等部の取り組み

1 高等部研究方針	90
2 高等部研究経過と予定	90
3 学部研究の実際	
(1) 育てたい資質・能力の要素分け	90
(2) 進路指導における学年目標とのすり合わせ	91
(3) 「宮特授業改善ポイント」と高等部職員の工夫	91
(4) 単元設定の改善	92
(5) 成果と課題	92
〈参考資料・職員アンケート〉	93
各学年の取り組み（学習指導案、個別の評価記録、成果と課題）	
1年 生活単元学習「ドリームマップ（夢の地図）」	95
2年 生活単元学習「就業体験に向けて 自分をアピールしよう」	101
3年1組 生活単元学習「余暇活動 みんなで楽しみたいことを決めよう」	108
3年2組 生活単元学習「自分らしさを活動で発揮する」	114

## VI 高等部の取り組み

### 1 高等部研究方針

- (1) 昨年度取り組んだ評価観点を明確にした評価実践に加え、「宮特授業改善ポイント」を意識して、授業改善を図る。
- (2) 授業研究は生活単元学習における進路学習を対象とし、授業実践及び評価実践の研究は各学年と重複学級の4班が、それぞれで行う。
- (3) 学習指導案様式及び個別の評価記録の様式は必要に応じて、各グループで検討の上、変更することができる。
- (4) 学習指導案、個別の評価記録は各班で話し合っって作成・記録する。
- (5) 観点別評価等、授業研究を行うにあたっての疑問や意見等があれば、その都度学部研修会で確認する。

### 2 高等部研究経過と予定

学期	高等部研修内容
一学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研修目的と取り組む方向性の確認</li> <li>○高等部の育てたい資質・能力について共通確認</li> <li>○高等部研修方針の検討、決定</li> <li>○研究班の決定、研究授業に関する話し合い</li> <li>○育てたい資質・能力の要素分け</li> </ul>
二学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各班の研究授業及び授業研究会①</li> <li>○各班実践の成果と課題まとめ①</li> <li>○合わせた指導について</li> <li>○各班の研究授業及び授業研究会②</li> <li>○各班実践の成果と課題まとめ②</li> </ul>
三学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年間指導計画の見直し</li> <li>○次年度年間指導計画の内容の検討</li> </ul>

### 3 学部研究の実際

#### (1) 育てたい資質・能力の要素分け

昨年度に引き続き高等部の教育目標④(自ら考えることを大切にし、行動できる生徒)から、高等部で特に育てたい資質・能力を「考えることを大切にし、行動する力」と設定した。育てたい資質・能力を「考えること」、「大切にし」、「行動する力」の3つに区切り、それぞれを生徒の実態に合わせて各班で要素分けし、具体化・焦点化することで、各班が同じ方向性をもって授業研究が行えるようにした。

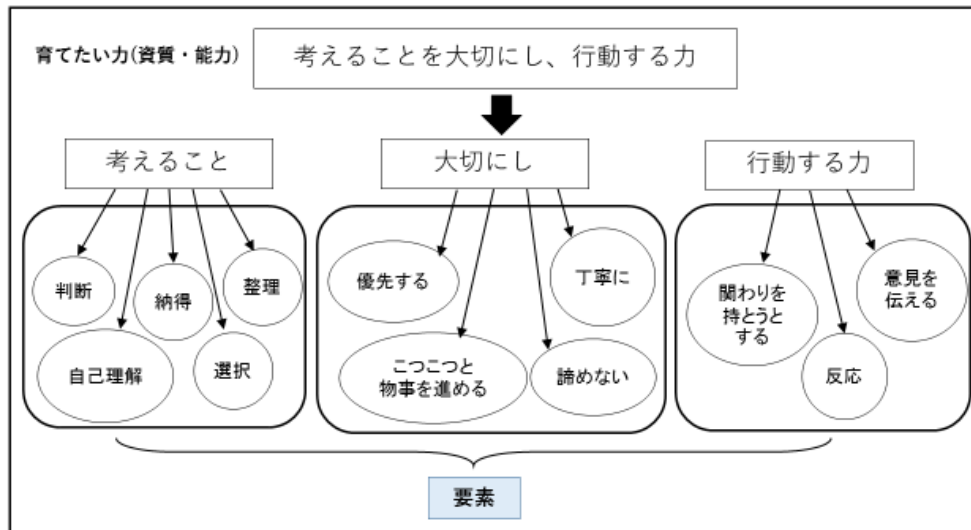


図1. 要素分けのイメージ

(2) 進路指導における学年目標とのすり合わせ

高等部の育てたい資質・能力を要素分けし、進路指導における学年目標とすり合わせることで、各学年が同じ方向性をもって取り組めるように研修を設定した。

進路指導における学年目標（進路指導基本方針より）

- 【1 学年】：自己理解と実習の意義を知る
- 【2 学年】：実習体験の拡大を図り、働く意義を知るとともに働く意欲を育てる
- 【3 学年】：具体的な進路選択・決定と卒業後の具体的な生活イメージを描くことができる

↓ すり合わせ

- 【1 学年】：「自分を知る＝考えること」を軸にする
- 【2 学年】：「働く意義について整理する」を軸にする
- 【3 学年】：卒業後の具体的な生活イメージを持つ」を軸にする

(3) 「宮特授業改善ポイント」と高等部職員の工夫

宮特授業改善のポイント

- ① 子供が、学習の意義や学習の計画を理解し、見通しを持っているか。  
(めあてや学習計画の提示の工夫)
- ② 子供が考え、判断する場面があるか。(教わる学習と考える学習のバランスや工夫)
- ③ 子供が振り返り（評価）を通して学びを意識化しているか。(子供に伝わる評価の工夫)

上記のポイントを意識した授業改善の工夫

- ①めあてや学習計画の提示の工夫
  - ・前時に学んだことを振り返り、本時に取り組むことやその目的を提示する。
  - ・簡単な例から見せて、生徒が本時の目標を生徒自ら設定するような工夫。
- ②教わる学習と考える学習のバランスや工夫
  - ・複数の物を比較させる(方法は生徒に考えさせる)

- ・生徒同士の話し合いの場面で、話し合いが活発になるような言葉かけの工夫。話し合いの目的を達成するための条件を出す工夫、生徒が考え判断できるような話し合いの条件を整理して伝えた。

③子どもに伝わる評価の工夫

- ・振り返りの場面で、本時の生徒の様子、変容を伝え良い点とともに、改善すべき点についてどのように工夫が必要かを生徒に考えさせる。

(4) 単元設定の改善

高等部の育てたい資質・能力を要素分けした後、進路指導における学年目標とすり合わせることで、各班が同じ方向性を持ち、かつ高等部3年間で系統立った学習となるように研修を行った。さらに、各学年において、どのようなねらいをもって何を学ばせるかを検討しながら単元設定を行った。

○高等部の育てたい資質・能力

「考えることを大切にし、行動する力」

○進路指導における学年目標(進路指導方針より)

【1学年】：自己理解と実習の意義を知る

【2学年】：実習体験の拡大を図り、働く意義を知るとともに働く意欲を育てる

【3学年】：具体的な進路選択・決定と卒業後の具体的な生活イメージを描くことができる

	概 要
1 学年	「自分を知る＝考えること」を軸に単元設定。 ドリームマップの作成をとおして、自分の好きなこと、苦手なこと、やってみたいことなどを知り、夢を叶えるためにどうしたらいいかを考え、自己の将来に結び付ける手がかりをつかめるようにする。
2 学年	「働く意義について整理する＝考えること」を軸に単元設定。 教師との対話から働くことの必要性について考えさせるように、生徒の意見を引き出す。働く場での対人関係に焦点を絞り、「あいさつ」「適切な言葉遣い」等が良好な対人関係を築く手立てになることを改めて理解させる。
3 学年	「卒業後の生活イメージを持つ＝考えること」を軸に単元設定。 余暇を楽しみ充実させることが豊かで安定した生活を送る上で大切であることを学び、余暇の過ごし方について活動の場所や内容の選択、情報収集を行い決定していく過程をとおして、自己の卒業後の生活イメージを持てるようにする。
重複学級	「卒業後の生活イメージを持つ＝考えること」を軸に単元設定。 他者の関りから生まれる感情の表出、作業や活動に生かせる特出した行動の定着を図る。学習を通して、卒業後の生活の場でも自分の良さを生かせることを感じさせる。

(5) 成果と課題 (成果→○ 課題→●)

- 育てたい資質・能力が何かを各々が思考し、話し合いの前提を揃えることで目的を焦点化しやすくなった。さらに、学習指導案や評価記録簿の作成を通して観点別評価に関して理解が深まった。多方面からの考え方を自分に落とし込んで、相互ですり合わせることで

より生徒にとって必要なことを見いだすことができることを再確認できた。

- 授業改善を行う中で、さまざまな場面においてなにが必要(優先)でなにが必要でないかを取捨選択していく思考にシフトしつつある。
- 教員の授業力向上や評価力に関して、実践場面で生徒の実態に応じた単元目標や評価規準を設定するためについて話し合いの前提が細かく行えていない。この課題を解決していくための時間の捻出、話し合いの場を設定するなど、調整が必要となる。
- 授業改善を行うことが、学習内容の精選や教育課程の編成につながるということの意識づけはあまりできていない。理論上では分かっているが、これを具現化するための動きがあまりない。職員個々の取り組みで完結させるのではなく、当初の単元計画や評価計画を話し合う、見直す等の場を設定するなど、学部全体を巻き込んだ取り組みまで発展させる必要がある。

#### 〈参考資料・職員アンケート〉

##### ①「宮特授業改善のポイント」について(意見・感想等)

- 子どもが学習の意義や学習の計画を理解し、見通しをもつための工夫を行ったか。
  - ・最初の授業で身に付けてほしい力を生徒に説明して納得させた。
  - ・授業のはじめにねらいや計画について、生徒と確認する。また、まとめにおいて授業のねらいについて振り返らせ、意識して取り組めたかを確認し、次時の授業に繋げる。
- 子どもが考え、判断する場面の設定のためにどのような工夫を行ったか。
  - ・可能なかぎり、生徒同士での話し合い等の活動や iPad を利用しながら、主体的に取り組めるような活動を設定している。
  - ・考えるということがむずかしそうなので「選択」や「記憶」、「工程通り行う」を「思考→判断」として、ねばり強くさせている。
- 子どもが振り返り(評価)を通して学びを意識化するためにどのような工夫を行ったか。
  - ・身に付けさせたい力を振り返りシートに入れて毎回チェックさせている。また、言葉かけを意識的に行っている。全員の感想を次回提示している。
  - ・生徒が学びを意識化するということがどういうことかをまだ自分の中でよくわかっていないのもっと勉強していく。

##### ②「授業改善を通して」

- 観点別評価について、各自の授業実践や授業研究会等をとおして感じたこと
  - ・会のたびに、観点別評価等について職員間で話し合うきっかけが増えている感じは受ける。
  - ・教員になってからずっと、「主体的・対話的で深い学び」となるように授業を目指してきた。その中で「主体的・対話的で深い学び」の評価をするのが悩みだった。つまり、生徒へのフィードバックと他者への伝達の方法が難しいと感じていた。観点別評価はそれを解決する具体的な“手段”だと今は感じている。
- 「主体的・対話的で深い学び」を授業改善の方法として取り入れてみて感じたこと

- ・ 生徒の実態を考えると「主体的・対話的で深い学び」をどう捉えて、授業改善に取り入れるかが難しいと思った。
  - ・ 「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりは以前から行ってきた。「生徒がより生き生きに」を今年度は意識し、実践を行ってきた。「声かけや待つ」の部分と「興味を持つ課題づくり」の部分がとても難しいが、続けていきたい。
- 学習改善・授業計画・改善をしていくうえで、あなたが大切だと思うこと
- ・ 組織作りが大切だと考えている。実践を推し進めるとモチベーションの維持・向上など組織という環境によって左右されると感じている。
  - ・ 1)個人内で「育てたい資質・能力」を整理(キャリア教育の視点)、2)教科会、学部などで「育てたい資質・能力」を持ちよって、整理(話し合い、それによって妥当性が高まる)、3)各授業の「学習内容」整理、4)「育てたい資質・能力」と「学習内容」を掛け合わせつつ、生徒が自発的になれる授業計画を立てる、5)実践、6)前時を振りかえつつ4) 5)を行う。

## 生活単元学習 指導案

令和 2 年 9 月 1 4 日 木曜日 6 校時 場所：図書室  
 対象：高等部 1 学年 男子 3 人 女子 5 人 計 8 人  
 指導者：CT：砂川理宇太 ST：上運天英也、上江洲美香

### 【育てたい資質・能力】

- ・将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、表現する力を養う。

### 1. 単元名「ドリームマップ (夢の地図)」

### 2. 単元設定の理由

#### (1) 生徒観

本題材の対象である高等部 1 年 2 組は、男子 3 名、女子 5 名の計 8 名で構成されており、教師 3 名で指導にあっている。生徒の実態は様々だが全体的に指示理解がある程度でき、基本的な生活習慣がほぼ確立されている。しかし、生徒は活動を振り返ってまとめたり、それを伝えたりという経験が少なく、得意でない生徒が多い。作業能力にも差があり、個々の特徴についても様々で、場に応じた行動や言葉遣いに課題がある生徒もいる。

本学級では、今年度の目標として「自己認知・自己選択・自己決定」を目標に、自立活動や生活単元学習の時間に SST を取り入れ、各活動に取り組んでいる。その中で、プロフィールシートや進路学習のアンケートの結果から、「将来の夢や目標を持っている」の項目で 8 名中 3 名が無回答と、自分のやりたいことがまだ見付かっていない状況だった。また、具体的に職業まで書いている生徒も 3 名と少なく、学級全体としても具体的に働くことについてのイメージを持つことができていないと考えられる。

#### (2) 単元観

生活単元学習では、生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際、総合的に学習するものであるとされている。

しかし、今まで経験したことを、自分自身の将来のイメージに結びつけたり、生活を振り返り、改善に結び付けたりすることはなかなか難しい。そこで今回は、ドリームマップ作成を通して、「自立」や「働く」ために必要な能力について学習をし、将来の目標を立てたり、将来についてのイメージが持てたりするような学習を丁寧に行いたいと考えた。まとめの学習においても、「伝える」ことを目標としたことで、学習に対し自主的に見通しを持って取り組めると考えた。また、発表を通して、たくさんの人と関わる楽しさやコミュニケーションの広がり期待でき、将来の自立（生き方）にも大きく影響するものとする。

「ドリームマップ」とは、自分の将来の夢や目標を見付けさせ、それに向かって今からどんなことをすればいいのか、自己の生き方について考えさせるものである。

#### (3) 指導観

今回の授業では、ドリームマップ作成を通して、「夢」の大切さについて関心を示し、日頃の学習が将来の仕事に繋がっていることに気づかせ、生徒が自らの進路についてより具体的に考える機会にするため、指導に当たっては、生徒が意欲的に取り組むことができるように、次の 2 点のことに留意した。

1 点目は、課題設定の工夫を行うことである。将来や夢に対する意識が低い状況を踏まえ、いきなり自分の興味のある事柄について調べてみようとして投げかけても、手が進まない生徒がいることが予想される。そこで、現在知っている事柄を挙げさせ、クラスメイトに紹介する活動を設定していく。その中で、職業に対する新たな発見から、自分がやってみようという課題を設定していく。

2 点目は、ドリームマップにまとめることを通して、自分の生き方や在り方を考えていくことで、キャリア教育に繋げていきたい。生徒の発達段階に応じて、関わり合う人への関心や働いていることへの理解、感謝する気持ちの高揚など、仕事に関する知識を広げるだけでなく、意識面での成長

も促す必要がある。また、働くことの価値を形成し、協働について理解を深めることや、自分の将来について自分で意思決定する能力を高めることも必要である。そこで、「夢」の大切さについて理解を深め、将来に対する関心・理解を高めながら、自分のやりたいことや将来の希望など、自己実現に向けて努力するとする意欲に繋げていきたいと思い、本単元を設定した。

### 3. 単元目標

- (1) 自分が将来なりたいものや暮らしについてまとめる活動を通して、職業に就くために必要なことや家族・社会との関わりについて考えたことをドリームマップにまとめることができる。

### 4. 単元の観点別目標（評価規準）

- (1) 自分の将来や夢に関心を持つことができる。【知・技】  
 (2) お互いの良さを認め合い、仲間との関わりを深めることができる。【思・判・表】  
 (3) ドリームマップをまとめることができる。【主体】

### 5. 学習計画と評価計画

次	時	主な学習活動	評価の観点		
			知・技	思・判・表	主体的
一	1	オリエンテーション	○		
	2	夢のほりおこし	○	○	○
二	1	素材の切り取り、貼り付け	○		○
	2		○		○
	3		○		○
三	1	説明文作成	○		○
	2		○		○
四	1	発表（☆本時）		○	○

### 6. 単元の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	自分の将来や夢に関心を持つことができる。	お互いの良さを認め合い、仲間との関わりを深めることができる。	相手に伝わるように説明することができる。
B	自分の将来や夢に関心を持つことができる。	お互いの良さを認め合い、仲間との関わりを深めることができる。	相手に伝わるように説明することができる。
C	自分の将来や夢に関心を持つことができる。	お互いの良さを認め合い、仲間との関わりを深めることができる。	相手に伝わるように説明することができる。
D	自分の好きなことについて知ることができる。	友達の好きなことや仕事について知ることができる。	ドリームマップをまとめることができる。
E	自分の好きなことについて知ることができる。	友達の好きなことや仕事について知ることができる。	ドリームマップをまとめることができる。
F	自分の将来や夢に関心を持つことができる。	お互いの良さを認め合い、仲間との関わりを深めることができる。	相手に伝わるように説明することができる。
G	自分の将来や夢に関心を持つことができる。	お互いの良さを認め合い、仲間との関わりを深めることができる。	相手に伝わるように説明することができる。
H	自分の将来や夢に関心を持つことができる。	お互いの良さを認め合い、仲間との関わりを深めることができる。	相手に伝わるように説明することができる。



## 7. 本時の学習（四の1時）

### (1) 本時の目標

- ① 自分のドリームマップについて、友達に発表することができる。（主体的）
- ② 他者の「夢」を知ること、自分の将来と結び付け考えることができる。（思・判・表）

### (2) 本時の個別目標

観 点 氏名	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	自分の将来について考えることができる。	自分のドリームマップについて、整理しながら友達に発表することができる。
B	自分の将来について考えることができる。	自分のドリームマップについて、整理しながら友達に発表することができる。
C	自分の将来について考えることができる。	自分のドリームマップについて、整理しながら友達に発表することができる。
D	自分の好きな事や、やりたい事を考えることができる。	自分のドリームマップについて、友達に発表することができる。
E	自分の好きな事や、やりたい事を考えることができる。	自分のドリームマップについて、友達に発表することができる。
F	自分の将来について考えることができる。	自分のドリームマップについて、整理しながら友達に発表することができる。
G	自分の将来について考えることができる。	自分のドリームマップについて、整理しながら友達に発表することができる。
H	自分の将来について考えることができる。	自分のドリームマップについて、整理しながら友達に発表することができる。

### (3) 本時の展開

	学習活動	評価の観点	教師の指導及び支援及び配慮事項	備考
導入 5分	1. 始めのあいさつ 2. 教師の話 (目標を確認)	【主】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの振り返りをする。</li> <li>・今日の活動の流れや約束事などをPP利用しながら説明する。</li> </ul>	大型テレビ パソコン
展開 40分	3. ドリームマップ発表  4. 自他の発表を通しての感想	【主】 【思・判・表】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・iPadやドリームマップを使って、自分の将来について発表を行う。</li> <li>・発表方法については、生徒の実態に合わせてながら教師の支援と見守りを行う。</li> <li>・ドリームマップ作りを通して自分の将来について考えることができたか。また、夢実現のために今後の自分の課題として何が必要かを教師の発問で引き出す。</li> <li>・他者の発表を聞いて自分の考えに変化があったかを教師の発問で引き出す。</li> </ul>	ドリームマップ iPad
まとめ 5分	5. 振り返り 6. おわりのあいさつ	【思・判・表】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習を通して、今後の学校生活で少しずつ課題を達成していく事を確認する。</li> </ul>	

## 8. 本時の評価基準

観点 氏名	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	◎将来について考えを発表することができる。 ○発問に対して考えを発表することができる。 △発表したり答えたりしない。	◎自分で整理しながら発表できる ○教師の支援を受け入れながら発表できる。 △発表を行わない。
B	◎将来について考えを発表することができる。 ○発問に対して考えを発表することができる。 △発表したり答えたりしない。	◎自分で整理しながら発表できる。 ○教師の支援を受け入れながら発表できる。 △発表を行わない。
C	◎将来について考えを発表することができる。 ○発問に対して考えを発表することができる。 △発表したり答えたりしない。	◎自分で整理しながら発表できる ○教師の支援を受け入れながら発表できる。 △発表を行わない。
D	◎発問に対して答えを選択することができる。 ○発問に対して答えを教師と一緒に選択することができる。 △発表したり選択したりしない。	◎教師の言葉かけを受け入れて発表できる。 ○全般的に教師の支援を受け入れて発表できる。 △発表を行わない。
E	◎発問に対して考えを発表することができる。 ○発問に対して答えを選択することができる。 △発表したり選択したりしない。	◎教師の言葉かけを受け入れて発表できる。 ○全般的に教師の支援を受け入れて発表できる。 △発表を行わない。
F	◎将来について考えを発表することができる。 ○発問に対して考えを発表することができる。 △発表したり答えたりしない。	◎自分で整理しながら発表できる ○教師の支援を受け入れながら発表できる。 △発表を行わない。
G	◎将来について考えを発表することができる。 ○発問に対して考えを発表することができる。 △発表したり答えたりしない。	◎自分で整理しながら発表できる ○教師の支援を受け入れながら発表できる。 △発表を行わない。
H	◎将来について考えを発表することができる。 ○発問に対して考えを発表することができる。 △発表したり答えたりしない。	◎自分で整理しながら発表できる ○教師の支援を受け入れながら発表できる。 △発表を行わない。

## 9. 授業の評価のポイント

(1) 評価観点を意識した課題設定、授業展開がなされていたか。

## 個別の評価記録 生活単元学習「ドリームマップ（夢の地図）」

生徒名：高等部1年 H 担当者名：砂川 理宇太

### 1. 単元の個別目標と評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①個別目標	自分の将来や夢に関心を持つことができる。	お互いの良さを認め合い、仲間との関わりを深めることができる。	相手に伝わるように説明することができる。
④個別評価	自分の将来に関心を持ってドリームマップを製作することができた。	他者の夢を否定せず、応援する気持ちで発言したり、振り返りシートの記入をしたりすることができた。	書き起こした文章をもとにKeynoteを作成し、iPadを操作しながら発表することができた。
④評定	○	○	○
⑤学習の成果と課題	○将来の生活のために自分が今何を頑張らなければいけないのかを考える事ができた。 ○学校での学習と働くことを少しずつ関連付けられるようになった。 ●大きな枠として将来をイメージすることができたが、働く上での態度や言葉遣いなどを今後関連付けながら学習が必要。		
⑥単元の成果と課題	○自分の興味のある事や暮らし等イメージしやすい内容から、将来の仕事や生活などを考える機会につなげることができた。 ○発表を通してプレゼンテーションするための知識や技能の向上、他者に伝える力を高めることができた。 ●現在はやりたい仕事や暮らしなど憧れの要素が強い部分もあるため、少しずつ卒業後の暮らしや仕事にシフトしていく必要がある		

### 2. 本時の個別の観点別目標と観点別評価

次	時	②観点別目標	③評定			③観点別評価
			知	思	主	
一	1	ドリームマップについて知る。	○			・ドリームマップに興味を示し、説明を聞くことができた。
	2	自分の夢や将来についてイメージを膨らませ調べ学習をする。	○	○	◎	・イメージを膨らませながら自分の興味ある仕事、暮らし、趣味、欲しい物などを調べて書き出すことができた。
二	1	素材の切り取りや貼り付けをし、ドリームマップをまとめる。	○		○	・自主的に素材の切り取りを行う事ができた。 ・貼り付け場所を考えながらカテゴリ毎にドリームマップをまとめる事ができた。
	2					
	3					
三	1	説明文やKeynote作成を行う。	◎		○	・説明文を主体的に作ることができ、表現が分からない時は教師や友達と話し合いながら進めることができた。 ・Keynote作成では使い方の説明を聞きながら文章入力、アニメーションの追加や編集を自分なりに工夫して作ることができた。
	2					
四	1	発表を通して自己表現や他者理解を深めることができる。		○	◎	・iPadを使いながら大きな声でドリームマップを発表することができた。また、他者の発表を聞いて相手の良さに気づき、振り返りシートに記入することができた。

〈授業研究の成果と課題〉成果→○ 課題→●

- 進路学習の一環であるが働く事にフォーカスせず、自分の好きな事や働いてみたい仕事、欲しい物や住みたい家など生徒のイメージしやすい内容から出発した事で興味を持続しながら学習に取り組むことができた。
- 発表後の振り返りシートでも自己や他者の理解に深まりを持つことができた。
- 憧れ部分が強い学習ではあるが、そこから今自分が頑張れることに少しずつシフトする事で、学校での学習が働く上でも必要なスキルである事を確認することができた。
- 大きな枠として自分の将来について考える事ができたが、憧れの職業や暮らしの部分から少しずつ卒業後の仕事や生活に考え方をシフトしていく必要性も感じた。ドリームマップを作ったことで興味関心の幅を広げることが出来たので、そこからさらに働く上での態度や言葉遣いに輪を広げたい。

生活単元学習学習指導案

令和2年9月14日 月曜日 6校時 場所：視聴覚教室

高等部 2年生 男子6名 女子5名 計11名

指導者 CT 神里竜也 ST 大城美咲・池原圭之介、安里かれん（金城努・重田浩典）

【育てたい資質・能力】 高等部「考えることを大切にし、行動できる力」

1 単元名「就業体験に向けて— 自分をアピールしよう！」～他者とのコミュニケーション～

2 単元設定の理由

(1) 生徒観

本学年 11名は、理解度に差はあるが言葉によるコミュニケーションは、ほぼ全員可能である。しかし、話し合いや選択場面においては、発言することに消極的であり、他者に決定を委ねる等受け身的になる傾向がある。苦手な活動においては、周囲への配慮ない拒否が見られることもある。できないことを知られたくない、自信がない、その根底には自分が傷つきたくないという「自己防衛的な要素」が働いていると考えられる。傷つきたくないという心情は、傷つくきっかけを自分から作りたくないという発信への不安も入り交じり複雑である。このような心情は、学級や学年の雰囲気や学習活動にマイナスな影響を与える可能性がある。

(2) 単元観

将来の就労に向けて進路指導部が提示している「働くための5ステップ(就労準備性ピラミッド)」の中で高等部2年生の課題となっているコミュニケーション(働く場での対人関係)を扱うこととしている。「あいさつ・会話・言葉遣い・非言語的コミュニケーション・協調性・感情のコントロール」の6つにおいて、自分の課題を明確にする学習である。他者に受け入れてもらえる、自分も受け入れるという安心感のある雰囲気を作れば、他者の表出された言動に悪意がないことを知り、相互に肯定的な捉え方ができるようになると考える。また、コミュニケーションは、日頃から自分なりにできていると思いがちだが、将来自立し社会参加するために重要であるため、就業体験を活用した本単元を設定した。

(3) 指導観

就業体験の事前訪問時に生徒自身であいさつができるように指導を行う。コミュニケーションに課題がある生徒もこの学習を通してあいさつの仕方や支援ツールを使い自分自身であいさつができるように指導の工夫を行う。事後学習ではiPadを活用してまとめ、進路決定に向けて主体的に考え活動できるように指導を行う。また、「就業体験の足跡」ワークシートや掲示物作成を行い、自己理解を進める。反省点だけでなく、主体性が生まれ、これから何を目標にしていくかなど、自分の将来を描けるよう学習活動を進めていく。また、コミュニケーションを通して、対話的な学びやキャリア教育の視点も取り入れた授業展開を行う。

3 単元目標

- (1) あいさつ、会話、言葉遣いなど基本的なコミュニケーションができる。
- (2) 就業体験に向け、自分で考えた事業所あいさつができる。
- (3) 就業体験についての話題や成果を友だちに伝えることができる。

4 単元の観点別目標（評価規準）

- (1) 就業体験に向けて、基本的なコミュニケーション方法を理解することができる。【知識・技能】
- (2) その場面を考えて、言葉を選んで発信することができる。【思考力・判断力・表現力】
- (3) 就業体験に向けて、自ら進んでコミュニケーションを取ることができる。【主体的に学習に取り組む態度】

5 学習計画と評価計画

次	時	主な学習活動	評価の観点		
			知・技	思・判・表	主体的
一	1	「笑顔であいさつ」 あいさつの基本	◎	○	○
	2	「このことば正しいの？」 正しい言葉遣いについて	◎	○	○
二	1	「自分をアピールしよう！」 自分でできる就業体験事前訪問あいさつ	○	◎	○
	2	「就業体験先はどんなところ」 自分の就業体験先について対話	◎	○	○
	3	「就業体験をおえて」 就業体験を終えて得たもの	○	◎	○

6 単元の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	就業体験を通して感じた事をまとめて発表することができる。	適切な言葉遣いを考え、人との関わり方を考えることができる。	自分が考えたことや学んだ事をすすんで発表することができる。
B	就業体験の意義や内容を理解することができる。	就業体験先であいさつや適切な言葉使いを行うことができる。	進んであいさつや発表を行うことができる。
C	就労のために身につけておくべきことを知ることができる。	卒業後の進路について考えることができる。	自分の気持ちや意見を他者に伝えようとする事ができる。
D	働くことの必要性や就業体験の意義を理解することができる。	卒業後の進路について考えることができる。	教師の話や友人の発表に興味を持って聞くことができる。
E	就業体験を通しコミュニケーションの必要性・重要性を知ることができる。	指示をしっかりと聞き、自分が今何をするのが把握することができる。	他人に興味を持ち、自分からあいさつをすることができる。
F	体験を通して得た新たな知識をまとめ、発表することができる。	自分の特性について考え、将来について見通しを立てることができる。	苦手なことや未体験のことでも失敗を恐れず、すすんで取り組むことができる。
G	就業体験を通して働くことへの関心を高めることができる。	人との関わり方を考えることができる。	人と関わる中で自分の感じたことを敬語で伝えることができる。
H	就業体験を通して感じたことや学んだことを振り返り、文にまとめることができる。	自分の得意なことややりたいことを自覚し、将来の進路について考えることができる。	考えたことや体験したことをすすんで他者に伝えようとする事ができる。
I	就業体験を振り返って、学んだことや体験したことをまとめて発表することができる。	自分の得意なことややりたいことを自覚し、将来の進路について考えることができる。	自分が考えたことや学んだことをすすんで発表することができる。
J	働くことの必要性や就業体験の意義を理解することができる。	卒業後の進路について考えることができる。	友人の発表や教師の話聞くことができる。
K	人と関わるために必要な表現方法を知ることができる。	場に応じた話し方を選択することができる。	自ら考えて人と関わる事ができる。

7 本時の学習（二次の1時）

(1) 本時の目標

- ① ワークシート「自分をアピール」をまとめることができる。
- ② 事業所あいさつを1人で行うことができる。
- ③ 友だちのあいさつを見てワークシートに評価を記入することができる。

(2) 本時の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む 態度
A	TPO に応じたあいさつの用法について学ぶことができる。	友だちの発表を観察し、良い点を見つけるなど評価を行うことができる。	
B	ワークシート「自分をアピール」をまとめることができる。	友だちのあいさつを見て、声の大きさなど考えて評価を行うことができる。	教師の指示を聞き、最後まで授業に参加することができる。
C	前時までを思い出しワークシートをまとめることができる。	理想的なあいさつのあり方について考えることができる。	友だちの発表に興味をもちながら観察することができる。
D	教師の話聞いて、ワークシートをまとめることができる。	友だちの発表を観察し、良い点を見つけるなど評価を行うことができる。	友だちの発表に興味をもちながら観察することができる。
E		皆と一緒に、大きな声で挨拶の練習ができる。	あいさつの文言を声に出して読もうとすることができる。
F	TPO に応じたあいさつの用法について学ぶことができる。	友だちと自分の発表を比べその違いについて考え、共有することができる。	楽しみながら、すすんで発表に取り組むことができる。
G	就業体験先でのあいさつの方法を学ぶことができる。	友達の発表を聞き自分の考えをまとめることができる。	
H	TPO に応じたあいさつの用法について学ぶことができる。	友だちの発表を観察し、良い点を見つけるなど評価を行うことができる。	すすんで発表に取り組むことができる。
I	TPO に応じたあいさつの用法について学ぶことができる。	友だちの発表を観察し、良い点を見つけるなど評価を行うことができる。	すすんで発表に取り組むことができる。
J	途中で妥協せずにワークシートをまとめることができる。	あいさつの意義を考え、理想的なあいさつについて考えることができる。	友達の発表を最後まで見ることができる。
K	あいさつの仕方を理解することができる。	場面に応じたあいさつの仕方を考え声に出して表現することができる。	

(3) 本時の展開

	学習活動	評価の観点	教師の指導及び支援及び配慮事項	備考
導入 5	1 始めのあいさつ 2 前時の振り返り 本時の内容の確認 本時の目標の確認	主体的	・必要に応じて、日直に注目するように言葉かけを行う。 ・CTに注目するように言葉かけを行う。	

展開 40分	<前時の続きの活動> 3 ワークシート「自分をアピール」の確認	知・技	・「自分をアピール」がまだまとまっていない生徒はまとめから進める。	[社会]
	4 「事業所あいさつ」の見本	知・技	・生徒がスムーズにあいさつができるように職員による見本を見せる。	[職業]
	5 まとめたワークシートを参考に、事業所あいさつに挑戦 (友だちのあいさつを見ている生徒は、発表チェックシートに記入する。)	思・判・表	・1人で発表できるように言葉かけを行う。 ・事業所あいさつは別室で行い、本番に近い環境作りを行う。	[情報]
	※今回発表できなかった生徒は次回行う	思・判・表 主体的	・Zoomアプリを活用し、全体であいさつの様子が見られるようにする。  ・発表後、ワークシートに書けていない生徒に対しては質問しながら、書けるような支援を行う。	[国語] 大型テレビ iPad ワークシート
まとめ 5分	<本時の学習を振り返る> 6 感想発表 7 次回の授業の連絡 8 終わりのあいさつ	主体的	・本時を振り返り感想を発表させる。 必要に応じて、発表者に注目するように言葉かけを行う。 ・CTに注目するように言葉かけを行う。 ・日直に注目するように言葉かけを行う。	

## 8. 本時の評価基準

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	◎TPOに応じたあいさつの用法について学び、場面に応じて適切なあいさつを選択することができる。 ○TPOに応じたあいさつを知ることができる。 △活動に参加できない。	◎友だちの発表を観察し、良い点や改善点を含め適切に評価を行うことができる。 ○友だちの発表を観察し、自分なりに評価をすることができる。 △評価をすることができない。	
B	◎自己アピールを含め、ほとんどの設問に記入し、まとめることができる。 ○設問を記入することができる。 △記入することができない。	◎友だちの声の大きさや姿勢などを比較判断し評価、記入することができる。 ○評価チェックシートに欄を間違わずに記入することができる。 △評価することができない。	◎教師の問いに対し、発表することができる。 ○最後まで授業に参加することができる。 △授業に参加することができない。
C	◎前時までの学習内容を活かしワークシートまとめができる。 ○教師の助言を受けながらワークシートまとめができる。 △うまくワークシートまとめができない。	◎理想的なあいさつのあり方について考えることができる。 ○あいさつの仕方による印象の変化に気づくことができる。 △友だちの発表を見て感じたことを意識化できない。	◎友だちの発表に興味を持ちながら観察することができる。 ○友だちの発表を観察することができる。 △友だちの発表を集中して観察することができない。
D	◎教師の話聞いて、ワークシートをまとめることができる。 ○教師と一緒にワークシート	◎友だちの発表を観察し、良い点を見つけ適切に評価を行うことができる。 ○友だちの発表を観察し、自分	◎友だちの発表に興味を持ちながら観察することができる。 ○友だちの発表を観察する



	の空欄を埋めることができる。 △活動に参加できない。	なりに評価をすることができる。 △評価をすることができない。	ことができる。 △活動に参加することができない。
E		◎皆と一緒に、大きな声であいさつの練習ができる。 ○教師に促されて活動に参加することができる。 △活動に集中できず練習することができない。	◎あいさつの文言を声に出して読もうとすることができる。 ○教師の範読や指さしに導かれて読むことができる。 △モニターやプリントに集中することができない。
F	◎TPOに応じたあいさつの用法について理解し実践することができる。 ○教師の見本どおりあいさつの発表をすることができる。 △学んだあいさつを発表することができない。	◎友だちと自分の発表を比べその違いについて考え、伝え合い共有することができる。 ○友だちと自分の発表の違いに気づくことができる。 △友だちの発表を見て感じたことをまとめられない。	◎楽しみながら、すすんで発表に取り組むことができる。 ○教師に促されて発表することができる。 △助言があっても発表することができない。
G	◎就業体験先でのあいさつの方法を理解することができる。 ○就業体験の必要性を理解することができる。 △活動に参加できない。	◎自分の考えを言葉に出して伝えることができる。 ○友達の発表を聞くことができる。 △話を聞くことができない。	
H	◎TPOに応じたあいさつの用法について学び、場面に応じて適切なあいさつを選択することができる。 ○TPOに応じたあいさつを知ることができる。 △活動に参加できない。	◎友だちの発表を観察し、良い点や改善点を含め適切に評価を行うことができる。 ○友だちの発表を観察し、自分なりに評価をすることができる。 △評価をすることができない。	◎すすんで発表に取り組むことができる。 ○教師の促しで発表することができる。 △助言があっても発表することができない。
I	◎TPOに応じたあいさつの用法について学び、場面に応じて適切なあいさつを選択することができる。 ○TPOに応じたあいさつを知ることができる。 △活動に参加できない。	◎友だちの発表を観察し、良い点や改善点を含め適切に評価を行うことができる。 ○友だちの発表を観察し、自分なりに評価をすることができる。 △評価をすることができない。	◎すすんで発表に取り組むことができる。 ○教師の促しで発表することができる。 △助言があっても発表することができない。
J	◎ワークシートのすべての設問をまとめることができる。 ○ワークシートの空欄を埋めることができる。 △記入することができない。	◎友人の発表を見比べて、理想的なあいさつについて考えることができる。 ○ワークシートの空欄を埋めることができる。 △活動に参加できない。	◎すべての発表を、集中して試みるができる。 ○教師の言葉かけを聞いて活動に参加することができる。 △活動に参加できない。
K	◎場面に応じたあいさつを理解理解することができる。 ○場面に応じたあいさつの仕方を理解することができる。 △挨拶練習に参加できない。	◎自ら場面に応じたあいさつを選択し表現することができる。 ○教師と一緒にあいさつをすることができる。 △活動に参加できない。	

## 9 授業の評価のポイント

- (1) 単元目標と評価規準の関係、本時の目標設定は適切であったか。
- (2) 教師のパフォーマンスは、個別目標を達成させるために適切な支援であったか。

## 個別の評価記録 生活単元学習「就業体験に向けて自分をアピールしよう」

生徒名：高等部2年 J

担当者名：安里かれん

### 1. 単元の個別目標と評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①個別目標	働くことの必要性や就業体験の意義を理解することができる。	卒業後の進路について考えることができる。	友人の発表や教師の話を聞くことができる。
④個別評価	学習を重ねていくにつれて、働くことや就業体験の意義などについて、少しずつ理解できてきた。	実習を振り返り、頑張ったことや反省点を確認し、スライドショーにまとめることはできたが、卒業後の生活や進路について考えることは難しかった。	友人の発表や教師の話を聞くだけでなく、就業体験報告会では、実習内容について自分なりに詳しく発表することができた。
④評定	○	○	○
⑤学習の成果と課題	<p>【成果】単元学習前は「卒業後は働きたくない」「就業体験もしたくない」等の発言が多く聞かれたが、学習を重ねていくにつれて、そういった発言が減ってきた。また、苦手なスライドショー作りにも、こまめに声かけをしたり、他の生徒の作品を参考にしたりすることで、最後まで取り組むことができた。</p> <p>【課題】今後も継続的・日常的に就労や進路の話をする中で、徐々に働くことや進路の話題に対する抵抗感を無くしていく必要があると考える。また、その日の気分によって左右されることなく、発表すべきことは発表できるようにすることが今後の課題である。</p>		
⑥単元の成果と課題	<p>【成果】本単元を設定することで、就業体験に向けて、「働くこと」「実習の意義」などについて丁寧に確認することができた。また、他の生徒の発表を聞くことを通して、どのような仕事があるのか具体的に学ぶことができるため、良い単元設定だったと思う。</p> <p>【課題】第一次の1時「笑顔であいさつ」、2時「このことば正しいの？」では、理想的な挨拶や言葉遣いについて理解できるだけでなく、実際に使うことができるように、今後も継続して指導していく必要があると考える。</p>		

### 2. 本時の個別の観点別目標と観点別評価

次	時	②観点別目標	③評定			③観点別評価
			知	思	主	
一	1	後期就業体験に向けて、働くことの必要性や就業体験の意義を理解することができる。	○			働くことの必要性や就業体験の意義について、教師の話を最後まで聞くことができた。
	2	適切な言葉遣いや態度について、友人の発表や教師の話を聞くことができる。			◎	友人の発表を見たり、教師の話を聞いたことで、適切な言葉遣いや態度について確認することができた。
二	1	途中で妥協せず、最後までワークシートをまとめることができる。		○		途中で手が止まることはあったが、声かけをすることで、最後までワークシートをまとめることができた。
	2	自分の就業体験先について、事前挨拶で聞いたことを元に発表することができる。			△	・みんなの前に立つことはできたが、促しても、実習内容や目標について発表することができなかった。
	3	仕事内容や頑張ったこと、反省点などを、自分なりに工夫してスライドショーにまとめることができる。			◎	・アニメーションや動画を入れたり、字の大きさにこだわったりするなど、工夫してスライドショーを作成することができた。

〈授業研究の成果と課題〉成果→○ 課題→●

- 各教師が担当生徒の実態把握を行い、情報提供しながら個別の評価記録を中心に学習指導案を作成することで実態に応じた授業展開を工夫することができた。
- 教師間の情報交換の場が増え、一つの授業を教師みんなで展開しようとする意識の高まりを感じることもできた。
- 一つの単元のなかで、教師全員が CT を行うことで他の教師の授業の方法や生徒への言葉かけなどを学ぶ良い機会になった。
- 授業の展開のなかで、別室での活動（事業所面接の場面）をモニターに映し生徒全員で別室での活動を評価することで緊張感のあるメリハリのある授業を展開することができた。
- 生徒の実態の幅がとても広いので、焦点をどのあたりに設定するのかを教師間で話し合いながら授業計画を作成するかが今後の課題になる。

## 生活単元学習指導案

令和2年9月14日火曜日 2校時 場所：会議室  
 高等部3年2組 男子3名 女子5名 計8名  
 指導者 CT：下地耕一郎 ST：楚南沙織 松茂良力

1. 単元名 余暇活動 ～みんなで楽しみたいことを決めよう～

2. 単元設定理由

(1) 生徒観

本学級は高等部3年生の一般学級男子生徒3名、女子生徒4名、重複学級女子生徒1名、計8名で構成されており、教師3名のティームティーチング体制で指導に当たっている。生徒たちの余暇の過ごし方は自転車での散歩や遊戯施設の活用をするものが一人いるがほとんどはテレビやスマホゲームなど自宅内のできる余暇を過ごしている。これは新型コロナウイルス感染予防のため、自宅で過ごすことが多くなったことも原因であるが、ほとんどの生徒は本来活発で、自宅近所であれば自分の好きなものの買い物や友達と遊びに行けるなど、余暇を楽しく過ごす能力は持っている。

(2) 単元観

本単元では、「余暇・趣味」に焦点をあてた学習活動を展開する。社会人として、豊かで安定した生活を送ることができるためには、働くだけではなく、自分の地域で余暇を楽しみ充実させることが必要と考える。そこで、地域にある公共施設（体育館、公民館）や飲食店、ショッピングセンター、娯楽施設（カラオケ、ボウリングなど）などの生徒の関心の高い場所や活動を取り上げて体験することで個々の生徒なりの生き生きとした学習活動を展開できると考える。出かける場所や活動の選択には、より多くの情報収集が必要となるが、校内の友達や職員からの情報を活用しながら、自分の好きな余暇の過ごし方を友達に紹介し、一緒に出かけることで自分が情報提供者になれたという有用感をもつことができたり、友達と一緒に活動して楽しさを共有したりすることで、個々の余暇の過ごし方に広がりをもたせるきっかけになるものと考え。以上のように、今の生活を楽しむことが将来の生活を楽しむことにつながるという視点に基づいて、本単元を設定した。

(3) 指導観

自分から調べたり、活動したりすることができるように、生徒の興味のあるテーマを積極的に取り上げ、生徒の楽しむ気持ちを大切に取り組んでいく。単元を通して、友達と一緒に調べたり活動したりする場面を意図的に作り、友達と一緒に活動する楽しさや心強さを感じることができるようにする。

本単元で得た情報やスキルを活用できるようにするために、実際に活動を行い、卒業後の余暇を楽しむ、生活に幅を持たせていきたい。

3. 単元目標

- ・自分が関心のある活動を紹介したり、他の生徒の情報を共有し合ったりする。
- ・他の生徒と役割分担を行い、活動計画が立てられる。
- ・地域で積極的に活動する力を育成する

4. 単元の観点別目標

- (1) iPadや地域情報誌を活用し、必要な情報を調べる。（知・技）
- (2) 自分の余暇活動の紹介および他の生徒の発表する余暇活動から新しい活動の発見（思・判・表）
- (3) 活動に対する意欲、場や楽しさを共有・共感し、他者とかわらうとする意欲（主）

## 5. 学習計画と評価計画

次	時	主な学習活動	評価の観点		
			知・技	思・判・表	主体的
1	1	休日はどう過ごしている	○	○	○
	2	宮古島の楽しいところを見つけよう	○	○	○
2	1	みんなで楽しめる活動を決めよう（本時）	○	○	○
3	1	校外学習を計画しよう	○	○	○
4	1 ～ 3	校外学習	○	○	○

## 6. 単元の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	i p a dや地域情報誌を活用し、活動計画を立てることができる。	仲間と余暇活動について話し合い、意見をまとめ、発表することができる。	発言、提案し、学習に参加することができる。
B	教師の支援を受け、i p a dや地域情報誌を活用することができる。	仲間と余暇活動見について意見を出し、発表することができる。	自分なりに発言し、学習に参加できる。
C	i p a dや地域情報誌を活用することができる。公共施設や交通機関の活用ができる。	仲間と余暇活動について話し合い、意見をまとめ、発表することができる。	発言、提案し、学習に参加することができる。
D	i p a dや地域情報誌を活用し、活動計画を立てることができる。	仲間と余暇活動について話し合い、意見をまとめ、発表することができる。	発言、提案し、学習に参加することができる。
E	i p a dや地域情報誌を活用することができる。公共施設や交通機関の活用ができる。	仲間と余暇活動について話し合い、意見をまとめ、発表することができる。	発言、提案し、学習に参加することができる。
F	教師の支援を受け、i p a dや地域情報誌を活用することができる。	教師の支援をもらい、仲間と活動について意見を出し発表することができる。	自分なりに発言し、学習に参加できる。
G	i p a dや地域情報誌を活用することができる。公共施設や交通機関の活用ができる。	仲間と余暇活動について話し合い、意見をまとめ、発表することができる。	発言、提案し、学習に参加することができる。
H	i p a dや地域情報誌を活用し、みんなをリードし活動計画を立てることができる。	仲間と余暇活動について話し合い、意見をまとめ、発表することができる。	発言、提案し、学習に参加することができる。

## 7. 本時の学習

### (1) 本時の目標

- ・余暇活動の紹介、他の班の話の聞くことができる。
- ・新しい活動の発見をする。
- ・活動に対する意欲、場や楽しさを共有・共感する他者とかわらうとする意欲

### (2) 本時の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	楽しみたい場所、行き方、活動内容を理解している。	仲間と楽しみたい活動について話し合い、意見をまとめ、発表することができる。	積極的に発言し、学習に参加することができる。
B	楽しみたい場所の情報を理解している。	教師の支援を受けながら仲間とやりたい活動について意見を出し、発表することができる。	教師の支援を受け、発言し、学習に参加することができる。
C	楽しみたい場所の情報を理解している。	仲間とやりたい活動について話し合い、意見をまとめ、発表することができる。	積極的に発言し、学習に参加することができる。
D	楽しみたい場所の行き方、活動時間、内容を理解している。	仲間とやりたい活動について話し合い、意見をまとめ、発表することができる。	積極的に発言し、学習に参加することができる。
E	楽しみたい場所の情報を理解している。	仲間とやりたい活動について話し合い、意見をまとめ、発表することができる。	積極的に発言し、学習に参加することができる。
F	楽しみたい場所に行く目的、活動内容をしている。	教師の支援をもらい、仲間とやりたい活動について意見を出し、発表することができる。	教師の支援を受け発言し、学習に参加することができる。
G	楽しみたい場所の情報を理解している。	仲間とやりたい活動について話し合い、意見をまとめ、発表することができる。	積極的に発言し、学習に参加することができる。
H	楽しみたい場所の行き方、活動時間、内容を理解している。	仲間とやりたい活動について話し合い、意見をまとめ、発表することができる。	積極的に発言し、学習に参加することができる。

(3) 本時の展開

	学習活動	評価の観点	教師の指導、支援及び配慮事項	備考
導入 5分	① 始めのあいさつ ② 前時の振り返り ③ 本時の活動の確認	(主) (思・判) (主)	・日直の号令。姿勢を正すよう声掛け。 ・前時に取り組んだ活動内容を掲示。 ・本時の活動内容の手順を明示し、確認後2名1ペア編成にする。	めあてを掲示
めあて：みんなで楽しめる活動を決めよう				
展開 35分	④ 楽しみたいことを話し合おう (個→ペア) 話し合い、みんなで楽しみたいことを1つに絞る。 ⑤ 各ペアより発表 ミニホワイトボードにやりたいこと、その理由をかき、白板に張り付ける。 ⑥ 全体シェア (ペア→全体) 白板の前に集まり、やりたいことを一つに絞る。話し合い。	(思・判) (表) (思・判) (主)	・「3時間以内の行動であること」、「みんなが楽しめそうなもの」であることを考え、選ぶよう声掛けをする。 ・声の小さい生徒への発声指導。 ・生徒主導で発表できるようになるべく見守り。 ・生徒主導で決定できるよう見守る。	前時のワークシート ※適宜血糖値測定 ミニホワイトボード、4つ、ペン4本
まとめ 5分	⑦ まとめ、ふりかえり 生徒の感想 ⑧ 次時の予告 ⑨ 終わりのあいさつ	(思・判・表) (主)	・本時の活動と生徒の様子、変容を伝える。 ・次時の学習内容を連絡し、期待を持たす。 ・姿勢を正すよう声掛け。	

8. 本時の評価基準

観点 氏名	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	◎楽しみたい場所の情報を理解し、話し合いに活用することができる。 ○楽しみたい場所の情報を理解している。 △情報を活用できない。	◎本時の目当てを理解し、他者の意見を聞き、自分の意見をまとめ、発表することができる。 ○ペアと話し合ったことをまとめ、発表できる。 △発表できない。	◎積極的に発言し、学習に参加することができる。 ○支援を受けながら学習に参加する △意欲的でない態度
B	◎楽しみたい場所の情報を理解し、話し合いに活用することができる。 ○楽しみたい場所の情報を理	◎教師の支援を受けながらペアと楽しみたい活動について意見を出し、発表することができる。	◎教師の支援を受け、発言し、学習に参加することができる。 ○支援を受けながら学習に参

	解している。 △情報を活用できない。	○ペアと話し合ったことを発表することができる。 △発表できない	加する △意欲的でない態度
C	◎楽しみたい場所の情報を理解し、話し合いに活用することができる。 ○楽しみたい場所の情報を理解している。 △情報を活用できない。	◎本時の目当てを理解し、他者の意見を聞き、自分の意見をまとめ、発表することができる。 ○ペアと話し合ったことをまとめ、発表できる。 △発表できない。	◎積極的に発言し、学習に参加することができる。 ○支援を受けながら学習に参加する △意欲的でない態度
D	◎楽しみたい場所の情報を理解し、話し合いに活用することができる。 ○楽しみたい場所の情報を理解している。 △情報を活用できない。	◎本時の目当てを理解し、他者の意見を聞き、自分の意見をまとめ、発表することができる。 ○ペアと話し合ったことをまとめ、発表できる。 △発表できない。	◎積極的に発言し、学習に参加することができる。 ○支援を受けながら学習に参加する △意欲的でない態度
E	◎楽しみたい場所の情報を理解し、話し合いに活用することができる。 ○楽しみたい場所の情報を理解している。 △情報を活用できない。	◎本時の目当てを理解し、他者の意見を聞き、自分の意見をまとめ、発表することができる。 ○ペアと話し合ったことをまとめ、発表できる。 △発表できない。	◎積極的に発言し、学習に参加することができる。 ○支援を受けながら学習に参加する △意欲的でない態度
F	◎楽しみたい場所の情報を理解し、話し合いに活用することができる。 ○楽しみたい場所の情報を理解している。 △情報を活用できない。	◎教師の支援をもらい、ペアと楽しみたい活動について意見を出し、発表することができる。 ○ペアと話し合ったことをまとめ、発表できる。 △発表できない。	◎教師の支援を受け発言し、学習に参加することができる。 ○支援を受けながら学習に参加する △意欲的でない態度
G	◎楽しみたい場所の情報を理解し、話し合いに活用することができる。 ○楽しみたい場所の情報を理解している。 △情報を活用できない。	◎本時の目当てを理解し、他者の意見を聞き、自分の意見をまとめ、発表することができる。 ○ペアと話し合ったことをまとめ、発表できる。 △発表できない。	◎積極的に発言し、学習に参加することができる。 ○支援を受けながら学習に参加する △意欲的でない態度
H	◎楽しみたい場所の情報を理解し、話し合いに活用することができる。 ○楽しみたい場所の情報を理解している。 △情報を活用できない。	◎本時の目当てを理解し、他者の意見を聞き、自分の意見をまとめ、発表することができる。 ○ペアと話し合ったことをまとめ、発表できる。 △発表できない。	◎積極的に発言し、学習に参加することができる。 ○支援を受けながら学習に参加する △意欲的でない態度

## 9. 授業評価のポイント

- (1) 本時の評価は適切だったか
- (2) 3観点を意識した授業展開だったか



## 個別の評価記録 余暇の指導

生徒名：高等部3年 H 担当者名：下地耕一郎

### 1. 単元の個別目標と評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①個別目標	・ iPadや地域情報誌を活用し、みんなをリードし計画を立てる事ができる。	・ 仲間と余暇活動について話し合い、意見をまとめ、発表することができる。	・ 発言、提案し、学習に参加することができる。
④個別評価	・ 目的を理解し、それにあつた情報収集をおこなうことができた。	・ 多くの情報の中から目的に合った活動内容を選択し、発表することができた。	・ 他者の立場を考えて解決策を出し積極的に発言、提案を出すことができた。
④評定	◎	◎	◎
⑤学習の成果と課題	<b>【成果】</b> ・自分が提案する活動内容を発表することができた。リーダーとして全員が活動できる内容について話し合いを進め、まとめる事ができた。 <b>【課題】</b> ・話し合いでは支援が必要な実態の生徒がおり、自分の意見を通そうとすることに対して他者の意見を聞くよう促すことに時間を要した。		
⑥単元の成果と課題	<b>【成果】</b> ・余暇の過ごし方が読書やスマホ等一人で、屋内でできる活動、に傾向しており、選択できる余暇の種類が少ない現状があると予測されるが、多くの情報に触れさせ、友達と楽しむ時間とことをという選択をさせることができた。・企画やお店の情報の下調べ、意見の集約等生徒同士で進めていこう、という姿勢が見られた。 <b>【課題】</b> ・多くの案の中には、天候に左右されたり、時間的には校時内では体験できない活動があつた。移動手段が少ない現状から校外学習での活動に限界と、よりよい活動の工夫の必要を感じる。		

### 2. 本時の個別の観点別目標と観点別評価

次	時	②観点別目標	③評定			③観点別評価
			知	思	主	
一	1	・自分の時間の過ごし方を発表することができる。		◎		・自分らしい時間の使い方をみんなに発表することができた。
	2	・情報機器、雑誌を活用することができる。	◎			・多くの情報から、自分の好きな活動を選択することができた。
二	1	みんなが参加できる活動内容を考えることができる。			◎	・他の意見を聞き、全員が参加できる活動が行えるよう、意見をまとめることができた。
	2	・活動内容に関係する事柄について調べることができる。	◎			・店の開店時間、予算等調べることができた。
三	1～3	・校外での、マナーを守り楽しく活動することができる。			◎	・自分の目的も果たし、集団行動のマナーも意識して取り組んでいた。

#### 〈授業研究の成果と課題〉成果→○ 課題→●

- 単元の観点別目標の設定することで、学習の目標を明確にすることができ、評価につなげられることができた。
  - 本単元が学校教育にも必要性が明記されており、学習指導要領を活用し、指導に必要な要素を確認することができた。
  - 授業の中で、生徒の理解が早く、学習への取り組みが積極的であつたことから、本単元の内容が学級の生徒の実態におおよそ合致しており、授業の精選を図ることができた。
  - 他者の意見を聞いて自分の考えに反映させ、意見をすり合わせるという事が難しく、ただ単に自分の意見を出せばよいと考えたり、意見を押し通そうとしたりする生徒もおり、ペアの生徒が困ってしまう場面があつた。生徒同士の話し合いでは、平行線のままなので教師が入って解決したが、できれば生徒同士で解決させたかった。
- また、生徒の実態に合わせ、興味のあるもの、生活に身近にあるもの等を例に出しながら、「話し合いとはこういうものだ」と気づかせる工夫、指導が必要だと感じた。

## 〈単元の概略〉

本学級の生徒3名は、それぞれ知的障害とともに複数の種類の障害を併せ有していることから生活全般において支援や介助が必要である。

本単元では、生徒各自の表出や長所、それらを活かした活動を映像としてまとめる。生徒たちが本校でこれまでに培ってきた学習の成果のまとめとも言える。教師は“生徒らしさ”が発揮されるような活動や場面を設定した。生徒は教師と話し言葉やボディタッチ等で意思疎通を図りながら、表出や長所を意識的に再現することで、知識や技能を整理し、思考を伴いながら判断し、その判断の下で表現することになる。すなわち、自らの学びや成長を深くふり返ることになる。生徒が自信やコミュニケーションの意欲を持てるように、長所等を周囲の人々に実演や映像で紹介し、生徒が賞賛を得られるよう計画する。

## 〈授業研究の実際〉

- ①生徒の実態に合わせて、色や匂いや感触などの感覚を使って楽しめた。「できること」について本人の諦め感が見えたので、他者と協力することで様々な活動が可能になることを理解させ、思いを正直に伝えられるよう環境を調整した。
- ②好きなこと得意なことを考え、それを活動として取り組めたことは本人の意欲に繋がった。学習活動の配列は適切であった。
- ③本時の個別目標を生徒それぞれの実態に応じて観点別に設定した。個別目標を共通理解することで教師間の連携が図りやすく、観点を意識した言葉掛けがしやすかった。
- ④他学部の授業研究会で授業の振り返りの一つとして「いくつかの物の中から自分が作った物を選択させる」という方法をアイデアとして得た。言葉を使ってのコミュニケーションが難しい生徒に対しては、実物を見るのが視覚的に判断しやすいと考えられるので、今後実践する。

## ⑤〈授業研究の成果と課題〉 成果→○ 課題→●

- 育てたい資質・能力、単元の目標、単元の観点別目標、単元の個別目標、単元の個別の観点別目標と設定していく過程で、関わる職員間で話し合いを持ち、意見交換を何度も重ねることが育てたい資質・能力等の妥当性を高めるということが分かった。妥当性が高まるとは、生徒の実態により即した形になるということを目指す。
- 「主体的・対話的で深い学び」を目指して授業作りをしたことで、生徒が意欲的に学ぶ姿を見ることができ、他の学習にも生徒が学んだことを活かそうとする様子が見られた。
- 「主体的・対話的で深い学び」を「知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度」の3観点で見取することで評価がしやすく、教師間の話し合いにおいて前提の揃った内容につなげやすかった。
- 個別の評価記録は、指導と評価の一体化を図るツールとして有効であると感じた。
- 話し合いは重要であるが、話し合いの前提をそろえることがまず必要であり、前提をそろえるための基礎資料を学校全体で、少なくとも学部で整理することが必要がある。
- 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業作りには、準備の時間をしっかりとることが大切である。

## 生活単元学習指導案

令和2年9月14日 月曜日 5校時 場所：3年3組教室  
高等部 3年3組 男子3人  
指導者 CT：大城盛恒 ST：池原豊博 榮野川沢也

### 【育てたい資質・能力】

自分に自信を持って、人と関わる力

- ・自分に自信を持って：自分の良さや役割を理解し、間違いや他人との違いをおそれず
- ・人と関わる力：多様な集団の中で積極的に考えや気持ちを伝えたり、活動したりする力

### 1. 単元名「自分らしさを活動で発揮する」

### 2. 単元設定の理由

#### (1) 児童生徒観

本学級の生徒3名は、それぞれ知的障害とともにモヤモヤ病や筋ジストロフィー、脳性麻痺といった複数の種類の障害を併せ有していることから生活全般において支援や介助が必要である。教育課程は、自立活動の時間が多く設定されており、教科は音楽や体育、美術が設定されている。自立活動の内容は、話し言葉などを用いて相手の意図を受け止めたり、自分の考えを伝えたりといったコミュニケーションに関する学習や、日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や関節の拘縮・変形の予防、筋力の維持・強化を図るといった身体の動きに関する学習である。生徒3名とも言語の理解力が低く、他者との意思疎通の難しさが多々見られる。特に、気持ちの表出がうまくできない実態から、集団活動においては自ら判断したり表現したりする機会が少なく、長所を発揮する機会を失うこともある。しかしながら、日々支援者として生徒たちと過ごしていると、発語や動き、表情など3名それぞれに方法や度合いは異なるが、気持ちの表出と捉えられる表現を確実に見て取ることができる。また、主に個別の学習においては教師の支援のもとで、生徒各自の表出を活用して作品作りなどに取り組むこともできている。

進路選択ということに関して、上記の実態から「生活介護事業所で関わる人々と日々明るく前向きに過ごす」ことが本学級の生徒たちの充実した社会参加であると捉える。実際、本学級では卒業後に生活介護事業所を利用することを見据えて就業体験等を行っている。進路学習としては、他者と明るく前向きに過ごすために「他者からの働きかけに対して、受け身になるだけでなく自らが持てる能力を活用して他者に答える」ということを2年次までに学習している。3年次となる今回においても、同様の要素を含んだ学習を繰り返し行い、定着を図ることは必要である。さらに、3年次ということとを考慮すると、学んだことを多くの人に知ってもらうこと、特に、保護者や利用する予定の事業所の職員に知ってもらうことは円滑な就労移行のために必要であると考えられる。なぜなら、支援者が生徒の表出や長所等を把握して接することは生徒の安心感となり、新たな環境下でも意欲を持って過ごすことに繋がると考えるからである。

#### (2) 単元観

本単元では、生徒各自の表出や長所、それらを活かした活動を映像としてまとめる。生徒たちが本校でこれまでに培ってきた学習の成果のまとめとも言える。生徒自身がテーマであり、教師は“生徒らしさ”が発揮されるような活動や場面を設定する。その設定により、生徒は他者と一緒に意欲的に活動し、自分らしさを発揮できると考える。また、映像で記録することで生徒が自分を振り返ることや、保護者等が学校での生徒らしさを見て学習の成果を知ることができるため、本単元は本学級生徒の進路学習となり得ると考える。

#### (3) 指導観

本単元では、生徒が表出や長所を活かせる取り組みを担当教師と一緒にやる。話し言葉やボディタッチ等でコミュニケーションを図りながら、表出や長所を生徒に意識的に再現させることは、知識や技能を整理し、思考を伴いながら判断し、その判断の下で表現することになると考える。すなわち、生徒に自らの学びや成長を深くふり返らせることになる。生徒に自信やコミュニケーションの意欲を持たせるために、長所等を周囲の人々に実演や映像で紹介し、生徒が賞賛を得られるよう計画する。

本学級は、生徒1名に対して1名の教師が毎時間指導に当たり、移乗等を補助する介助員や医療的ケアを行う看護師も学級に入り生徒に接している。そのような職員体制から生徒の様子を複数の職員が目で見ることができている。各職員が見取った表出や長所などの生徒の様子は情報共有し生徒の指導に活かしていく。

### 3. 単元目標

- (1) 自分のできることや長所を認識し、自信を持って発揮することができる。
- (2) 自分のできることや長所を活かして、より多くの人と関わろうとする態度を身に付ける。

### 4. 単元の観点別目標（評価規準）

- (1) 主に自分のことに関して、「成長」や「いいところ」、「人と関わること」について、感じたり理解したりすることができる。【知・技】
- (2) 他者の働きかけや場の雰囲気を手がかりとして、考え判断して、自分の良さを活動や意思疎通に活用することができる。【思・判・表】
- (3) ・自分の良さを活用し他者に賞賛された経験から、良さを繰り返し活用したり、新たな方法を見いだしたりすることができる。【主体】  
 ・自分の良さを活用して、他者に働きかけることができる。【主体】

### 5. 学習計画と評価計画

次	時	主な学習活動	評価の観点		
			知・技	思・判・表	主体的
一	1	好きなことや得意なことについて知る。	○		
	2	やりたい活動を決める。		○	
二	1	スライム作りについて調べる。	○		
	2	スライム作りの役割分担。		○	
	3	スライム作りをする。	○	○	
	4	作ったスライムを使う。	○	○	
	5	スライム作りで自分がやったことを映像でふり返る。		○	○
三	1	やりたい活動を決める。		○	
	2	〇〇作りについて調べる。	○		
	3	〇〇作りの役割分担。		○	
	4	〇〇作りをする。	○	○	
	5	作った〇〇を使う。	○	○	
	6	〇〇作りで自分がやったことを映像で振り返る。		○	○
四	1	これまでの活動の映像を他者に観てもらい、褒められる。	○		○
	2	活動を振り返り、それを今後も活かすことを確認する。	○		○

### 6. 単元の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	自分のよさを他者から伝えられると、返事をしたり、そのよさを発揮したりできる。	他者の働きかけや活動の意味を把握した上で、他者に促されつつも自分ができる行動を選択し実行できる。	・場の雰囲気や活動の内容を踏まえて、自ら適した行動をとる。 ・他者と協働しようという行動をとる。
B	自分の動きや活動に対して、教師の言葉かけを聞いて、自分の気持ちを確かめ確認できる。	他者の働きかけや場の雰囲気を感じ、受け入れて活動を共にしたり、拒否し拒む行動ができる。	反射的な行動で自分の気持ちや表現し、もっとやってほしいと要求ができる。
C	自分が「できること」、「やりたいこと」を考えることができる。	自分の良さを理解し、それを発揮する方法を考え行動に移すことができる。	「できること」を理解し、活動の幅を広げる工夫ができる。

## 7. 本時の学習（二の3時）

### (1) 本時の目標

- ①自分のできることを理解し、実行できる。
- ②スライム作りでできることを考え、活用しようとする事ができる。

### (2) 本時の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	『材料や道具を掴むこと、混ぜること、見ること、受け取ったり手渡したりすること』を自分ができるということを理解し、促されると実行できる。	道具や状況、言葉かけから何をすべきか考え・行動を選択し、行うことができる。考えたことを実行できる。	・掴むこと、混ぜること、見ること、受け取ったり手渡したりすることを作業工程の中で適切に発揮できる。 ・『仲間の順番のときには待つ』など他者を意識できる。
B	ボタンを押すことや材料を振って混ぜることを教師の言葉かけを聞いて継続できる。	道具を手渡されたり、他者からの言葉かけでできることを考え、行動に移すことができる。	手渡されるさまざまな道具を自分で確認し、行動に移すことができる。
C	スライム作りの指示者として、材料や作業工程を理解し担当者に伝えることができる。	作業の様子を見て、材料を混ぜ合わせる等を判断し、各担当者へ指示を出すことができる。	指示の言い回しを工夫したり相槌を打つなどして、集団活動を盛り上げようとする。

### (3) 本時の展開

	学習活動	評価の観点	教師の指導及び支援及び配慮事項	備考
導入 10分	体調・姿勢のチェック 始めの号令 前時までの内容確認 本時のめあての確認	知識・技能	・生徒が話を聞きやすい体勢を整える。 ・生徒の反応を確認する。	・車いすに乗る。
展開 30分	〔スライム作り〕 材料の確認  役割分担の確認  ・水とホウ砂を混ぜる。 ・水と洗濯のりを混ぜる。 ・色を選んでつける。 ・混合液同士を混ぜる。 ・においを選んでつける。  スライムで遊ぶ (感触遊び、掴む、離す)	知識・技能 思・判・表  知識・技能 思・判・表	〔全体を通して生徒の反応を丁寧に待つ〕 ・素材の感触を手の平で感じられるようにする。  ・返事をするよう促す。  ・手や道具を使って「混ぜる」ということを理解させる。 ・道具や材料を「見る（注視）」「選ぶ」ということを促す。 ・手添えなどの支援を徐々に減らし、自分で行うよう促していく。 ・適宜褒める。	・iPadやGoProで動画と写真を撮影する。
まとめ 5分	できたことの確認  次時の確認 終わりのあいさつ	知識・技能	・生徒が話を聞きやすい体勢を整える。 ・映像でできたことを確認した後、言葉かけや手添えでできた行動を再確認する。 ・適宜褒める。	

8. 本時の評価基準

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	<p>◎『材料や道具を掴むこと、混ぜること、見ること、受け取ったり手渡したりすること』を自分ができるということを理解し、促されると実行できる。</p> <p>○『材料や道具を掴むこと、混ぜること、見ること、受け取ったり手渡したりすること』を手添えなどの支援の下で促されると実行できる。</p> <p>△促されたときに、「はい」の返事や促された行動とは違うが何かしらの反応ができる。</p>	<p>◎道具や状況、言葉かけから何をすべきか考え・行動を選択しようとするすることができる。考えたことを実行できる。</p> <p>○繰り返し行動を促されると、その行動を実行できる。</p> <p>△促されたときに、「はい」の返事や促された行動とは違うが何かしらの反応ができる。</p>	
B	<p>◎ボタンを押すことや材料を振って混ぜることを教師の言葉かけを聞いて継続できる。</p> <p>○ボタンを押すことや材料を振って混ぜることを教師の言葉かけや手添えなどの支援で継続ができる。</p> <p>△目的の活動とは違うが、覚醒し皆と行動を共にすることができる。</p>	<p>◎道具を手渡されたり、他者からの言葉かけでできることを考え、行動に移すことができる。</p> <p>○活動を拒む場合は、時間を置いたり、環境を変えることで、行動に移すことができる。</p> <p>△目的の活動とは違うが、覚醒し皆と行動を共にすることができる。</p>	<p>◎手渡されるさまざまな道具を自分で確認し、行動に移すことができる。</p> <p>○活動を拒む場合は、時間を置いたり、環境を変えることで、行動に移すことができる。</p> <p>△目的の活動とは違うが、覚醒し皆と行動を共にすることができる。</p>
C	<p>◎スライム作りの指示者として、材料や作業工程を理解し担当者に伝えることができる。</p> <p>○教師からヒントをもらいながら作業工程を伝えることができる。</p> <p>△教師の言葉をそのまま伝える。</p>	<p>◎作業の様子を見て、材料を混ぜ合わせる等を判断し、各担当者へ指示を出すことができる。</p> <p>○教師の促しによって物事を判断し担当者へ指示を出すことができる。</p> <p>△物事の判断がつかず教師の支援を待つ。</p>	<p>◎指示の言い回しを工夫したり相槌を打つなどして、集団活動を盛り上げようとする。</p> <p>○教師の促しによって指示の出し方を工夫できる。</p> <p>△自分の気持ちを出せず教師の支援を待つ。</p>

個別の評価記録 生活単元学習の指導「自分らしさを活動で発揮する」

生徒名：高3年 A 担当者名：大城盛恒

1. 単元の個別目標と評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①個別目標	自分のよさを他者から伝えられると、返事をしたり、そのよさを発揮したりできる。	他者の働きかけや活動の意味を把握した上で、他者に促されつつも自分ができる行動を選択し実行できる。	・場の雰囲気や活動の内容を踏まえて、自ら適した行動をとる。 ・他者と協働しようという行動をとる。
④個別評価	(二の5まで) 自分の良さを生かした行動をした際に、教師から賞賛の言葉かけなどがあると喜ぶ表現をすることができ、その行動を促されると支援無しでも行おうとするなど、自らの良さを発揮する姿勢が見られた。	(二の5まで) 教師の言葉かけや目の前の道具等から、自分が何をした方がよいのか教師の表情も見取りながら考える様子が見られた。そして、手添えなどで練習した行動を選択・実行することができた。	(二の5まで) ・支援者が担当教師以外のときや、周囲の状況が普段と少し違うときは、その違いを気にして集中しにくい様子がみられた。しかし、どのような状況でもやるべきことを忘れることなく、適切な行動を選択する様子が見られた。 ・会話の中でタイミングを合わせて「はい」と返事をすることができ、他者と意思疎通を図るという意識が身につけている。また、他者に言葉をかけながら物を渡すなど、他者を意識しながら活動を行うことができた。
④評定	◎	◎	○
⑤学習の成果と課題	(二の5まで) 「他者と関わる中で進んで気持ちを伝え合う力」、「情報・助言を正しく理解し適切な行動につなげる力」、「課題を想像し間違いをおそれずねばり強くやり通す力」が本人の中で意識されたと思われる。作業において「丁寧さ」「細かさ」といった意識が本人には希薄であるが、脳性マヒという特性上、どの程度まで教師側が本人に求めるかは検討してもいいかもしれない。		
⑥単元の成果と課題	(二の5まで) 本単元の学習活動の配列は適切であったと思う。一方で、生徒が決めた活動内容（やりたい活動）を全ての生徒がより一層自発的に、教師の支援が少ない形でできるように計画や準備をする必要があったと感じる。そのために、生徒の実態把握もこれまで行ってきたことだけで足りないようであれば、視点を変えて見直したり、新たな方法や情報で実態把握をしたりする必要があると感じる。		

2. 本時の個別の観点別目標と観点別評価

次	時	②観点別目標	③評定			③観点別評価
			知	思	主	
一	1	好きなことや得意なことについて知る。	○			【知・技】教師の話聞き、タイミングを合わせて返事をするので、「自分は返事が得意なこと」や「他者と一緒に活動するべきとき」などを理解できていたと評価する。教師から言葉やジェスチャーで伝えられた分の「自分のよさ」については返事をしていたが、本当に理解しているかどうかを本時は評価しない。実際の活動の中で自ら発揮できるかどうかで評価していく。

	2	やりたい活動を決める。		△		【思・判・表】学級の仲間が提案したスライム作りを教師がスライムを見せながら本人に伝え、注視でき、手で触れることもできたので、スライムで何かをすることを認識したと評価する。「作る」ということに関しては言葉を理解しているかどうかを本時は評価しないし、一人で作るということは求めないので重視することではないと思われる。本時はAくんよりも他生徒のよさを中心に組み立てていた、この評価が単元全体の評価の中心には当たらないと考える。
二	1	スライム作りについて調べる。	○			【知・技】友達が調べたスライム作りの材料などを教師が伝え、話を聞いて相づちを打つことができた。教師の手添えの下、「握る」や「混ぜる」「受け渡し」の動作を確認できた。
	2	スライム作りの役割分担。		○		【思・判・表】自分ができる作業の役割を検討するために、粘土で「握る」や「受け渡し」を練習すると、積極的に手に取り握ったり受け渡したりできたので、物や動作を認識し、判断して行動したと評価する。
	3	スライム作りをする。	◎	◎		【知・技】各作業において、自ら手を差し出すことができたので「自分は手や道具を使って混ぜることができる」と理解している。また、教師の手添えのもと本人も力を入れながら、手などの動かし方を確認することができた。 【思・判・表】材料や道具を示されたり、言葉かけをされたりすると自ら行動して作業をしたので、見聞きしたことから、やるべきことを判断して行動できたと評価。
	4	作ったスライムを使う。	◎	◎	◎	【知・技】【思・判・表】【主体】スライムを使った遊びの中で、教師から言葉をかけられるとスライムを取って、にぎって感触を楽しんだり、教師に渡したりできたので、「自分は掴んだり離したりでき、それによって人と関わることができる」と理解し、意識的かつ意欲的に行動できていたと評価する。
	5	スライム作りで自分がやったことを映像で振り返る。		◎	◎	【思・判・表】【主体】iPadで写真等を示すと注視する様子が見られた。また、自分はどれか聞かれると指を指す動作もあったので、自身の活動の様子だと認識し、興味を持って見ることができたと評価する。
三	1	これまでの活動の映像を他者に観てもらい、褒められる。	○		○	
	2	活動を振り返り、それを今後も活かすことを確認する。	○		○	